



松溪中図書館だより

2021年4月
杉並区立松溪中学校
学校司書 新木

特集！ ようこそ、松溪中図書館へ & 課題図書紹介！



* 1年生 朝読書の様子

松溪中図書館司書 新木です。よろしくお願ひします。新年度を迎えましたが、コロナ禍にあって、実際に外向いて体験することがままならない状況です。こんな時こそ青春小説で感動し、ファンタジー・SF・ミステリーなどを読み想像力を膨らませ、自然科学本で興味を広げ、そして世界中の様々な問題について考えてみませんか。松溪中学校の図書館で、皆さんの心を揺さぶる本を探してみてください。

New 課題図書（共通の棚）紹介！

他にも
あります

『いま生きているという冒険』石川直樹／著 理論社

『「空気」を読んでも従わない：生き苦しさからラクになる』

『ベルリン』3部作 クラウス・コルドン／著 酒寄進一／訳 岩波書店

* 未知の場所へ旅をし、生きるという冒険を続ける著者のエッセイ。

鴻上尚史／著 岩波書店
* 他人の視線を気にせず、自分らしく生きていきたい人におすすめ。

* 理論社版は一般書架にあります。岩波少年文庫版は、各上下巻となり、読みやすくなりました。



『超えてみよう！境界線』

村山 哲也／著 かもがわ出版

372
△

長年途上国と呼ばれる国々で教育援助の仕事に携わってきた著者。様々な勤務地で、差別や貧困、支配や支援、虐殺の歴史などの出来事に遭遇しながらも「理科の面白さを伝えたい」熱意で活動を続け、友だちもでき、境界が薄れていきます。「境界はどこにでもあり、それぞれの都合で生まれたり消えたりするもの」だと。そんな中、ルワンダで交通事故に会ったことで「障害者」という境界線に直面することに…。

社会問題を真摯に考察しつつもユーモア溢れるこの本は、「世界は開いているから」という旺盛な冒険心が伝わるばかりか、日常の些細なことに疎外感を抱いている人の心も緩ませます。

各学年、著作権や・引用や参考図書の書き方の説明など、「図書館を使った学習の利用方法を」を説明しました。詳しく知りたい人は以下の本を参考に。

- 『学びの技』後藤芳文他／著
- 『思を深める探究学習』桑田てるみ／著
- 『やさしくわかるデジタル時代の著作権』松下幸太郎／著

4月 図書館を使った授業
(図書館での授業)

12日 1年生 オリエンテーション
14日 2年生 オリエンテーション
15日～3年生 オリエンテーション
(資料提供)

16日～3年生 修学旅行事前学習

祝・入学

新1年生と同じ年の本展示中！



『ボクはダ・ヴィンチになりたかった』石ノ森章太郎

『ビーバー族のしるし』E・J・スピア／著 13歳のマットが先住民の少年から学んだのは？

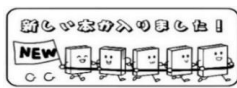
『数字のモノサシ』奇藤文平／著 「数字には“自分の数字”と“他人の数字”がある。」

『8分音符のプレリュード』松本 祐子／著 中学校の吹奏楽部を舞台にした青春小説

『ナピラとマララ』宮田 律著／著 講談社 アメリカ軍の無人ドローンのミサイルで、祖母を殺され自身も大ケガを負ったナピラ。教育を受けたいと願う二人の少女が「対テロ戦争」の犠牲になった状況と現状を紹介。

『ダイヤモンドより平和がほしいー子ども兵士・ムリアの告白』後藤 健二／著 汐文社 争いの渦に巻き込まれる人々を取材し続けた今は亡き著者。温かい目を向けられて語りだす子ども兵士の肉声に心痛みます。

『謎のアジア納豆：そして帰ってきた〈日本納豆〉』高野秀行／著 新潮社 「え、納豆って日本固有の食文化じゃないの？」と思っている人が多いのでは。しかし、著者は、実際に世界の辺境を取材しながら何度か納豆に出会っています。しかも、おせんべいや味噌など納豆文化は奥深いとのこと。その納豆文化をしっかりと説明できるよう、納豆を追い求めていく姿が好奇心にあふれ素敵です。そして興味は日本納豆へ。



* 国語科教科書参考図書を中心に入りました。
他にもあります

002	発信力の育てかた	外岡 秀俊	河出書房新社	「情報収集」「取捨選択」「共有」
007	働きたくないイタチと言葉がわかるロボット	川添 愛	朝日出版社	人工知能から考える「人と言葉」
104	哲学の練習問題 *リ	西 研	河出書房新社	やさしい言葉で本格的な哲学を！ 「考える」ための本格的哲学 T2のQ&A
E234	父さんはどうしてヒトラーに投票したの？	ディディエ・デニクス	エルくらぶ	
290	ニュースでわかる世界地図 (なるほど地図帳 世界2021)	——	昭文社	2021年版は、感染症の歴史や、世界地図で見るコロナ後の新状態などを特集
291	ニュースでわかる日本地図 (なるほど地図帳 日本2021)	——		
297	イースター島を行く—モアイの謎と未踏の聖地	野村 哲也	中央公論新社	著者お勧めの周遊ルート、島の歴史やモアイ像の謎、島の生活や祭り、文化の伝承などを写真と共に紹介した本。「前半は表の顔、後半は隠された秘密の素顔」
369	ユニバーサルデザイン 第2期全3巻	神保 哲生/監修	あかね書房	
372	超えてみようよ！境界線	村山 哲也	かもがわ出版	
383	謎のアジア納豆 そして帰ってきた(日本納豆)	高野 秀行	新潮社	四季それぞれの郷土料理とそのレシピ・風土・歴史などを写真満載で丁寧に解説。「日本の食を考える」巻もあり！
383	未来へ伝えたい日本の伝統料理 全5巻	後藤 真樹	小峰書房	
404	聞かせてよ、ファイマンさん	R.P.ファイマン	岩波書店	物理学者の魅力溢れる講演・インタビュー
407	「研究室」に行ってみた。	川端 裕人	筑摩書房	魅力満載！6人の研究者へのインタビュー
417	統計って何の役に立つの？ (子供の科学ミイイイ)	涌井 良幸	誠文堂新光社	自在に使うビッグデータ時代を生き抜く
451	雲を愛する技術	荒木 健太郎	光文社	雲についてのすべてが綴られた本
457	ぼくは恐竜探検家！	小林 快次	講談社	恐竜学者の少年時代から大発見まで
474	わかめ: およいで そだって どんどんふえる うみのしょくぶつ	青木 優和	仮説者	ワカメの一生を正確に分かりやすく解説
482	生きものおきて	岩合 光昭	筑摩書房	動物の生と死を捉えたフォトエッセイ
485	クモの糸でバイオリン	大崎 茂芳	岩波書店	柔らかく深みのある、独特の音色を実現
501	不利益のススメ	川上 浩司	岩波書店	不便から得られる8つの益とは？
504	ひと目でわかる テクノロジーのしくみとはたらき図鑑	村上雅人他/監修	創元社	世の中を支える技術をイラストで
611	食を考える	佐藤 洋一郎	わでしんいち	「ゴボウの実をヒトにマジックテープを發明！」など、身近な野菜にまつわるお話を、かわいいイラスト入りで紹介。
626	明日ともだちに話したくなる 野菜の話	稲垣 栄洋/監修	綜合法令出版	
702	ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」はなぜ傑作か？	高階秀爾	小学館	「最後の晩餐」「アダムとイブ」「受胎告知」などの聖書の物語を、巨匠たちがどのように描いてきたのかわかりやすく解説
726	ふしぎなえ	安野 光雄	福音館書店	
773	能の本 1・2巻	村上ナツツ	西日本出版社	代表的な「能の物語」を一巻に20曲
814	ちいさい言語学者の冒険—子どもに学ぶことばの秘密	広瀬 友紀	岩波書店	言い間違えが起こる理由を詳しく解説
814	音の表現辞典	中村 明	東京堂出版	日本語の擬声語・擬態語について、様々な分野の研究者が、8つの疑問を解説。
910	平安男子の元気な！生活	川村 裕子	岩波書店	
911	中学生に贈りたい 心の詩40	水内 喜久雄	PHP研究所	「恋」「将来」他6つのテーマにそった詩
911	いわずにおれない	まど みちお	集英社	著者へのインタビューといくつかの詩
913	えほん寄席 抱腹絶倒の巻	——	小学館	雑誌に掲載された46編エッセイ集！それぞれの生物にまつわる、主に幼少期の思い出がユーモアたっぷりに描かれる
914	いきもの図鑑	さくら ももこ	集英社	
933	ハリーポッターシリーズ 〈新装版〉全巻	J.K.ローリング	静山社	文化祭で歌舞伎の演目「毛拔」を披露する直前、部長の来栖が姿を消す
B913	カブキブ 7 *リ	榎田 ユウリ	角川書店	
B913	復活の日	小松左京	角川書店	生物化学兵器として開発された菌を搭載した小型機が冬のアルプス山中に墜落。やがて春を迎え… 緻密に練られたSF。
B913	GOSICKs ゴシックス 全4巻 *リ	桜庭 一樹	KADOKAWA	
B913	後宮の鳥	白川 紺子	集英社	

『平安男子の元気な！生活』 川村 裕子/著

『平安女子の・・・』の男性版がついに登場です。平安男子は和歌で恋の駆け引きをする優雅なイメージですが、実は早朝からのハードワークです。日記を書くのも子孫に行事のマニュアルを残すため。そして出世するには家柄や、娘を玉の輿に乗せるのが重要だとか。「ゲームとサッカー(蹴鞠)が趣味」など共通点の多い平安時代が楽しめる本です。

『後宮の鳥』 白川紺子/著

後宮の奥に住み、妃でありながら皇帝の側には仕えない「鳥妃」寿雪。不思議な術を操る彼女のもとへ、皇帝高峻が訪れ、ある依頼をします。この物語は、中華風な王朝を舞台に過去に起こった事件の謎を解いていく連作短編ファンタジーです。彷徨う幽鬼の魂を救う鳥妃や皇帝にも後悔する過去がありそうです。

『父さんはどうしてヒトラーに投票したの？』 ディディエ・デニクス/著 PEF/絵

湯川 順夫/翻訳 エルくらぶ
この絵本は、ヒトラーに期待をすべて委ねてしまおうとした父と、自分で考え判断しようとした母との言い争いの場面から始まります。投票の結果おとすれたナチ時代12年間の変化する日常が主人公の少年の視点で描かれています。民主主義の危うさを問うている本。